H29地域協働研究（ステージⅠ）

H29-Ⅰ-13「外国人の医療環境整備へ向けた取組に関する研究」

課題提案者：北上市まちづくり部生涯学習文化課
研究代表者：盛岡短期大学部　石橋敬太郎
研究チーム員：吉原秋、熊本早苗（盛岡短期大学部）、細越久美子（社会福祉学部）、アンガホッファ司寿子（看護学部）、蛎崎奈津子（岩手医科大学看護学部）、八重樫信治、金田仁（北上市まちづくり部生涯学習文化課）

＜要　旨＞

北上市における外国人の医療環境整備を目的として、北上済生会病院、北上市国際交流協会および北上市健康増進課福祉保健係の協力を得て、「産科・小児科および母子保健における外国人のための環境整備構想会」を実施した。この構想会から、それぞれの機関において外国人がより安全に安心して医療・保健を享受できるようにと高い意識をもち、また豊かな異文化理解を基盤として診療や看護、支援活動を展開していたことが明らかになった。今後、医療機関、保健所、国際交流協会が連携し、外国人女性の出産と子どもの受診に対応することを確認したほか、市が主体となり、医療通訳者の派遣・配置・養成について、実現可能な仕組みを作り上げることを確認した。

1　研究の概要（背景・目的等）

現在、北上市には約550人の外国人が生活しており、日常的にまちなかや職場などで見かける身近な人たちとなっている。言い換えるのなら、言葉や習慣などの異なる人たちがともに生活するという新たな社会が現出している。このような状況から、北上市では市民一人ひとりがお互いの文化を理解し合い、地域文化を支える主体としてともに生きていくという多文化共生社会を作り上げることを目的として、2016（平成28）年２月に『北上市多文化共生指針』を策定した。

本研究では、『北上市多文化共生指針』のうち、「外国人が安心できる医療環境の整備」を取り上げた。これを実際に運用するには、医療機関を含む関係諸機関や国際交流協会などが連携して、対応することが求められている。本研究グループでは、北上市に居住する外国人が増加しつつある現在、外国人女性が抱える妊娠・出産時の課題および子どもが受診する際の問題を明らかにすることから着手することにした。

具体的には、医療・保健および外国人支援を担う専門家間の連携を主軸とした意見交換を通し、北上市の外国人の受診状況等の特性に応じた課題の抽出と解決策を見出す機会として、「産科・小児科および母子保健における外国人のための環境整備構想共有会」を開催し、外国人とその家族が安心して暮らせる医療環境の整備に向けた情報共有をはかった。

2　研究の内容（方法・経過等）

（1）北上市において中核的役割を担う総合病院である北上済生病院の院長、ならびに産科医師、小児科医師、薬剤師、看護師、助産師、保健師、市職員、国際交流協会スタッフを参加者として構想共有会を開催した。

構想共有会の内容については、参加者の許可を得て、ビデオ撮影およびICレコーダーの録音を行った。これらのデータをもとに逐語録を作成し、その内容を整理・分析を行った。構想共有会の内容は表1のとおりである。構想共有会の開催時間は約１時間30分とした。

表１　構想会の内容

〔第1部〕
・医療における現状と課題について、医療全体、産科医療、小児医療、薬剤部からの報告
・母子保健における現状と課題の報告
・国際交流協会が受けている相談と外国人の状況についての報告
〔第2部〕
・関係各所の連携の現状と課題についての報告
〔第3部〕
・総括として、地域における課題と展望について意見交換

（2）先に実施した「産科・小児科および母子保健における外国人のための環境整備構想共有会」において、時間の制約上、看護師や助産師から十分な発言を得られなかったため、市職員と国際交流協会スタッフとともに、再度、構想共有会を開催した。この構想共有会では、「出産と子どもの受診の際、外国人女性が文化や言葉の違いで戸惑ったこと」と「外国人女性に対して、どのような対応あるいは役割などを担いたいかなど」を自由に話してもらった。

（3）北上市の医療環境整備に向けた手がかりを見出すために、同市内の病院で出産し、子どもの受診を経験した外国人女性にインタヴューを実施した。インタヴューの内容については、出産と子どもの受診に際して、「良かったこと」と「してほしかったこと」について自由に話してもらった。

3　これまで得られた研究の成果

北上済生会病院、北上市国際交流協会と北上市健康増進課福祉保健係の協力を得て、産科・小児科・母子保健における外国人のための環境整備構想共有会を開催した。それぞれの機関では、外国人がより安全に安心して医療・保健を享受できるようにと高い意識をもち、また豊かな異文化理解を基盤として診療や看護、支援活動を展開していた。それぞれの取り組みは次のとおりである。

【北上済生会病院の取り組み】

北上済生会病院で出産する外国人女性の数は、年間０～３人である。夫婦のいずれかが日本語ができたため、出産に関して支障が生じたことはない。手術をともなう出産の場合は、手術室看護師が麻酔科医とともに作成したパンフレットを活用し、絵を見せて説明するほか、家族に通訳を依頼することで対応している。小児科でも、支障なく対応できているが、父親が日本語を理解しても、母親が理解できない場合はトラブルになりやすいとの報告がなされた。

看護師、助産師は、市から配布されたパンフレットや翻訳アプリを活用して対応にあたっている。ただし、出産にあたり、受付時と診察時では異なる症状を訴えることがあるため、受付の段階で十分に症状を把握する必要があるとの意見が出された。また、夫との意思疎通が難しい家庭では、出産に関する知識を入手できないことから、精神的に不安定である可能性のある外国人女性が存在していることが報告された。看護師、助産師からは、このような外国人女性に対するケアを担いたいとの意見が出された。

薬剤科では、「薬のしおり」（英語版のみ）をネットから入手し、活用しているとの報告がなされた。また、翻訳アプリの導入について提案がなされた。

【北上市健康増進課と北上市国際交流協会の取り組み】

北上市健康増進課福祉保健係では、年間10人前後、母子手帳を交付している。母子手帳は希望の言語で交付している。乳児健診には、英語版問診票を活用している。対応には、外国人女性の家族・知人に頼っているほか、職員が身振りで対応している。

北上市国際交流協会では、病院の紹介、医療通訳者の紹介、病院受診の際の付き添い・同行のほか、問診票の多言語対応や翻訳を行っている。医療通訳の際には、準備のため事前に患者の病状について情報提供があることが望まれるとの要望が出された。

【外国人女性とのインタヴューから】

北上市の医療環境整備に向けた手がかりを見出すために、同市で出産、子どもの受診を経験した外国人女性４人にインタヴューを実施した。インタヴューの結果は表２のとおりである。インタヴューの結果から、外国人女性は、北上市内の医療機関等の対応にほぼ満足していることがわかった。ただし、外国人女性は、医師等とのコミュニケーション不足に不安を感じていることも浮かび上がった。

表２　外国人女性に対するインタヴューの結果

■ 出産に際して良かったこと
・絵を見せて説明してくれたこと、親切で丁寧に説明してくれたこと、看護師が優しかったこと、北上市国際交流協会スタッフが相談に乗ってくれたこと
■ 出産に際し、してほしかったこと
・医師の説明がほしかったこと、専門用語や漢字が難しかったこと、身体に付けるモニターなどの説明がほしかったこと、出産後の文化的な相違に対する理解がほしかったこと
■ 子どもの受診に際し、してほしかったこと
・病状を記載した紙を渡すだけではなく、読み上げてほしかったこと、今後の受診予定について説明してほしかったこと

今回実施した構想共有会では、外国人女性の出産と子どもの受診にあたり、それぞれの機関とも、家族に通訳を依頼、または専門家が身振り・手振りを交えながら真摯に対応していることがわかった。そのことは、北上市内の医療機関で出産、子どもの受診を経験した外国人女性のインタヴューからもうかがえた。ただし、外国人女性の受診等においては、言葉や文化の壁のほか、先入観をもたずに意思疎通をはかる、また相互理解に努めるなど「心の壁」を取り除くことも求められた。

病院側からは、国際交流協会に通訳派遣の依頼について要望が出されたことから、今後、両者間の連携による課題の解決が期待される。また、看護師、助産師からは保健所との連携が求められた。保健所においても、必要に応じて国際交流協会と情報を交換し合い、外国人女性を考慮した母親サークルの活動を進めることが望まれる。

4　今後の具体的な展開

本研究では、外国人支援のなかでも、外国人女性の出産およびその子どもの医療機関受診に対する医療環境の整備に向けた課題の整理を行ってきた。その過程において、医療通訳者の派遣・配置・養成について医療機関等から求められた。これを実現できる仕組みを構築することが市に求められている。今後、これを実現するための検討を実施する予定である。

5　その他（参考文献・謝辞等）

本調査研究にご協力くださった北上済生会病院、北上市健康増進課および北上市国際交流協会の皆様、そして快くインタヴューに回答してくださった外国人女性の皆様に心から感謝申し上げる。